

取扱説明書

保証書付



インバーター発電機

防音型

出荷前に動作点検を行っておりますため、
製品に少量のオイルが残っている場合があります。ご了承ください。

モデル

KEH3000i

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

■ 本書は大切に保管し、わからないときや不具合が生じたときにお読みください。

■ 仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

安全のため、ご使用前に必ず取扱説明書・本体ラベルをお読みにになり、十分にご理解のうえ、正しくご使用ください。

お読みになったあとは、いつでも参照できるよう大切に保管してください。



■	はじめに	P 04
	安全上のご注意.....	P 05
	ラベル.....	P 07
■	主要諸元	P 08
■	各部の名称	P 09
■	各部の取り扱い	P 11
■	使用前の準備	P 19
	エンジンオイルの給油.....	P 19
	燃料の給油.....	P 21
■	使用方法	P 23
	エンジンのかけ方.....	P 23
	電気の取り出し方.....	P 25
	発電機エンジンの止め方.....	P 29
■	保守と点検	P 30
	定期点検表.....	P 30
	電気の取り出し方.....	P 25
	・ エンジンオイルの交換.....	P 31
	・ ガソリンの抜き取り.....	P 33
	・ 点火プラグの点検・交換.....	P 34
	・ エアクリーナーの清掃.....	P 36
	・ 燃料タンクストレーナーの清掃.....	P 37
	・ 排気口の清掃.....	P 37
	運搬する場合.....	P 38
	長期保管(一時保管).....	P 39

■	故障と対処	P 40
	エンジンがかからない.....	P 40
	リコイルスタータークリップが引けない.....	P 40
	エンジンが数分動いた後止まる.....	P 41
	排気口(マフラー)から白煙が出る.....	P 41
	電気が取り出せない.....	P 41
	電気機器の出力が足りない.....	P 41
■	配線図	P 42
■	保証規約	P 43
■	修理サービス規約	P 44
■	カスタマサービスセンター	P 45
■	保証書	P 46

はじめに

ご使用の前に本書の注意事項をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 本書に示す注意事項は、製品を正しくお使いいただき、ご使用者および周囲の方々への危険や損害を未然に防止するためのもので、表示内容を見逃して誤った使い方をした場合に生じる危険・損害の程度を「警告」「注意」「禁止」「指示」に区分して説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。
- ご不明な点や不具合等がございましたら、お早めにお買い上げの販売店、または「カスタマーサービスセンター」へご相談ください。なお、本機を転売・譲渡される場合は、本書を必ず製品に添付してください。

※お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

※誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の区分で説明しています。

 警告	誤った取り扱いにより、死亡または重傷などを負う可能性があります。
 注意	誤った取り扱いにより、けがや財産への損害が生じる可能性があります。
 禁止	してはいけない内容です。
 指示	必ず守っていただく内容です。

はじめに

安全上のご注意



警告

- この発電機は車載用としては製造していませんので車載したまま使用しないでください。
- 医療機器への使用、キャンピングカー搭載での使用はしないでください。思わぬ事故を起こす可能性があります。
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- 取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。守らないと異常作動してケガをする、また本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。
- 子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 疲れているときや病気のとき、酒気を帯びた状態や薬物・医薬品を摂取した状態で運転しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすおそれがあります。
- 運転時、給油時は、付近にタバコ等の火気の無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや屋外でも換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。一酸化炭素中毒で死亡するおそれがあります。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- エンジンを始動させる前に必ず点検内容に従ってください。(詳しくは「使用前の準備」参照)
- 雨や水で濡れている状態で本機や本機に接続された電気機器を使用したり、濡れた手で操作したりすると、感電の原因になります。
- 正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。
- 未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
- 点検整備を行う場合は、エンジンスイッチをオフにしてください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ガソリンや燃料などの引火性液体を吸い込まないでください。火災や爆発を起こし、重傷を負う危険性があります。ガスを吸い込んだり、目に入ったりした場合は、ただちに医師の診察を受けてください。
- 砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しないでください。エンジン部品の早期摩耗の原因となります。始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れないでください。感電の原因となります。
- エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けしないでください。火災の原因となります。
- 使用時には、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。
- 並列運転端子には専用コード以外は絶対に接続しないでください。感電の原因となります。
- 給油中にこぼれた燃料はきれいに拭きとってください。燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。
- 燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。
- 給油時、燃料タンクの給油上限位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがあります。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。運転中にこぼれると火災の恐れがあります。
- 本機から離れるときは、必ずエンジンを止め、コンセントから電気機器のプラグを外してください。プラグを外さないと、いたずらなどで電気機器が動き、思わぬ事故が起きる原因となります。
- 点火源となるような機器の近くに保管しないでください。燃料蒸気へ引火する恐れがあります。
- 使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- 本機を水洗いしないでください。守らないと電装部品の事故やショートが起きる原因となります。また湿気や凍結により、使用時に感電する原因となります。
- 使い切っていない燃料は火災や爆発の原因となりますので、適切に処理してください。
- エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。
- 長期保管前には本機内の燃料を確実に抜き、火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管してください。

はじめに

安全上のご注意



注意



禁止

- 熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらないでください。ヤケドの原因となります。
- 本機の回転部に棒や針金を入れないでください。ケガや火災の原因となります。
- 交換用カセットポンベは炎天下に置かないでください。
- カセットポンベに付属するキャップを取付けて、40°C以下の日陰で保管してください。
- 始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れないでください。
- カセットポンベを捨てるときは、カセットポンベ内のガスを完全に使い切ってから、お住まいの地域の取り決めにしたがって捨ててください。ガスが残ったまま捨てるとゴミ収集車の火災の原因となるおそれがあります。
- 指定された発電機以外のと並列運転しないでください。



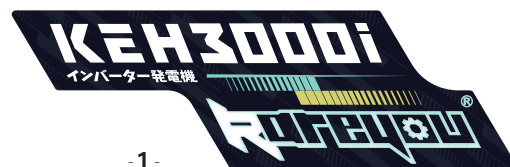
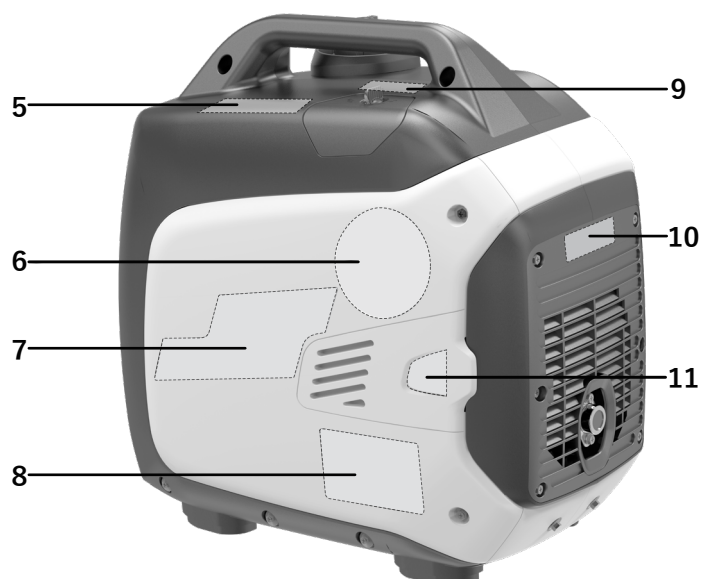
指示

- 延長コードは、電気機器に合った十分な太さのものを使用してください。(詳しくは「電気の取り出し方」参照)
- 燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
- 運転中に移動しないでください。
- 長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
- 液状のガスが皮膚に付着した場合は、凍傷の恐れがあります。燃料もれが無いかよく確認してください。
- 子供の手の届かない安全な場所に保管してください。
- 運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。

はじめに

ラベル

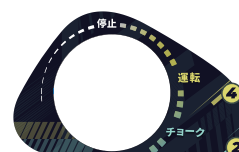
※ラベル添付位置は、実際と異なる場合があります。



-1-



-2-



-3-



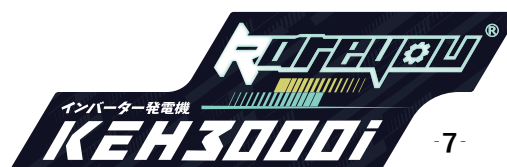
-4-



-5-



-9-



-7-



-6-



-8-



-11-



-10-

主要諸元

※予告なく仕様を変更する場合があります。また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。
ご了承ください。

型 番	KEH3000i	
タ イ プ	インバーター発電機	
相 数	単相	
エ ン ジ ン	型 式	空冷4ストロークOHVエンジン
	回 転 速 度	4800rpm
	排 気 量	143cc
	馬 力	4
	エンジンオイル	SAE10W-30API分類SE級以上
	オイル容量	0.4L
	点 火 プ ラ グ	E5TC
	始 動 方 式	リコイルスタート
燃 料	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	タンク容量	7.0L
	連続運転時間（25%負荷）	約9.5H
	連続運転時間（100%負荷）	約4.5H
交 流 A C	最大出力	3.5kVA
	定格出力	3.0kVA
	定格電流	20A/30A
	定格電圧	100V
直 流 U S B	USB-A	5V-3.6A/9V-2.5A /12V-2A
	TYPE-C	5V-3.6A/9V-2.5A /12V-3A
定 格 周 波 数		50/60Hz 切替式
使 用 環 境 温 度		-5 ～ 40℃
騒 音 レ ベ ル		69dB(測定面の半径 4m 範囲)
乾 燥 重 量		約 21kg
製 品 寸 法		500x305x500mm

各部の名称

※本取扱説明書に掲載されている写真はプロトタイプのため、本製品と仕様が異なる場合があります。

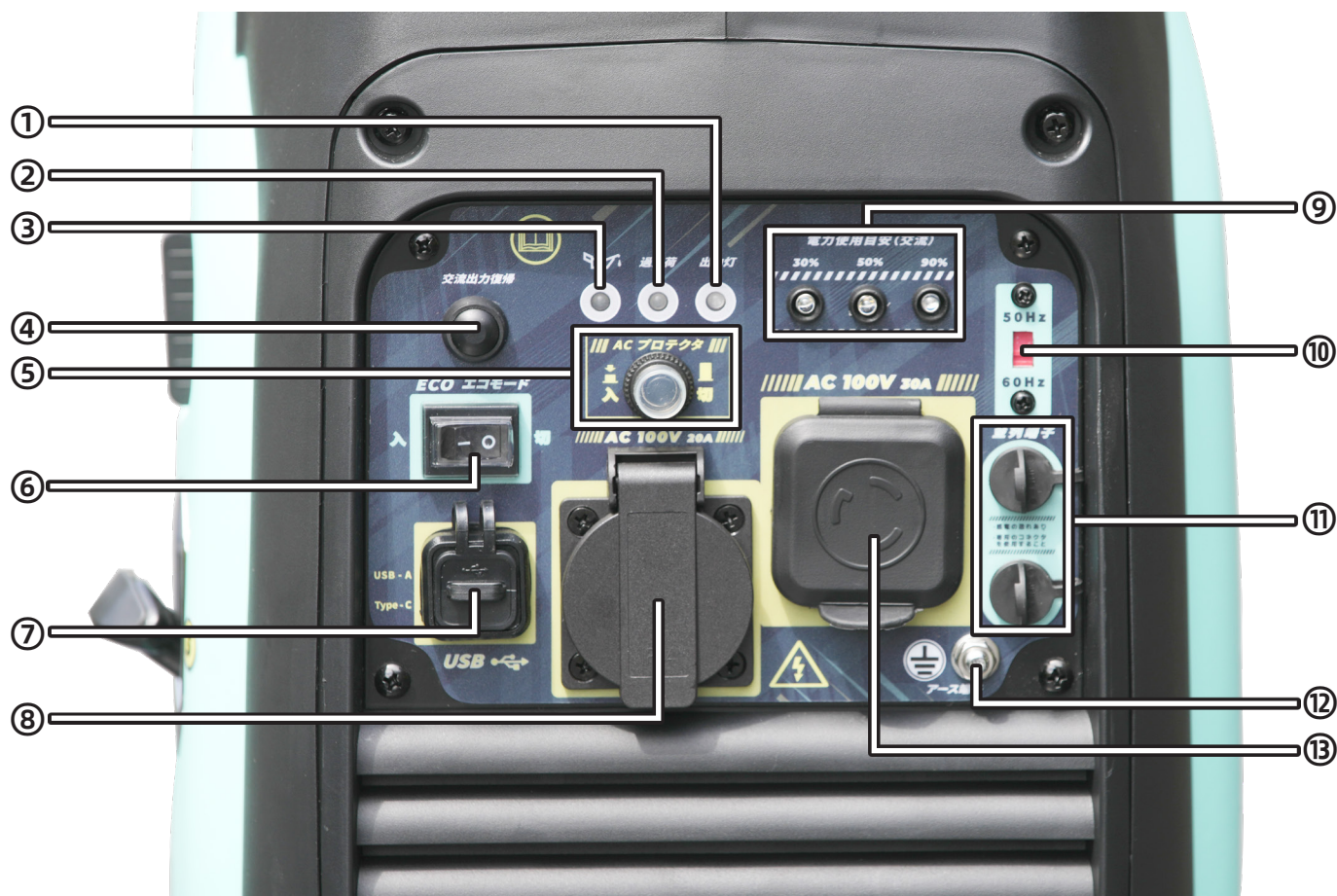


- ① 燃料残量計 [P11参照]
- ② 燃料タンクキャップつまみ [P11参照]
- ③ リコイルスターターグリップ [P11参照]
- ④ 燃料タンクキャップ
- ⑤ 3in1マルチスイッチ
(3ポジション：停止/運転/チョーク) [P12参照]
- ⑥ マフラーカバー
- ⑦ 排気口 [P11参照]
- ⑧ ハンドル
- ⑨ 点火プラグメンテナンスカバー

- ⑩ メンテナンスカバー
- ⑪ 防振スタンド
- ⑫ キャブレター（化気器） [P12参照]
- ⑬ 空冷4ストロークOHVエンジン
- ⑭ エアクリーナー [P13参照]
- ⑮ 燃料排出用パイプ(オイルドレンパイプ) [P12参照]
- ⑯ エンジンオイル注入口 [P13参照]
- ⑰ 点火プラグキャップ/点火プラグ [P13参照]
- ⑱ 点火プラグメンテナンスカバー固定ノブ

各部の名称

コントロールパネル



- | | |
|---|-------------------------------|
| ① 出力ランプ [P14参照] | ⑧ 交流ACコンセント(100V/20A) [P17参照] |
| ② 過負荷警告ランプ [P14参照] | ⑨ 交流電力使用目安提示ランプ [P14参照] |
| ③ オイル警告ランプ [P14参照] | ⑩ 50/60Hz周波数切替スイッチ [P15参照] |
| ④ 交流出力復帰ボタン [P16参照] | ⑪ 並列運転端子 (交流用) [P18参照] |
| ⑤ AC プロテクタ [P15参照] | ⑫ アース端子 [P18参照] |
| ⑥ ECOモード切替スイッチ [P16参照] | ⑬ 交流ACコンセント(100V/30A) [P17参照] |
| ⑦ USB出力端子 [P18参照]
(USB-A x 1口/TYPE-C x 1口) | |

各部の取り扱い

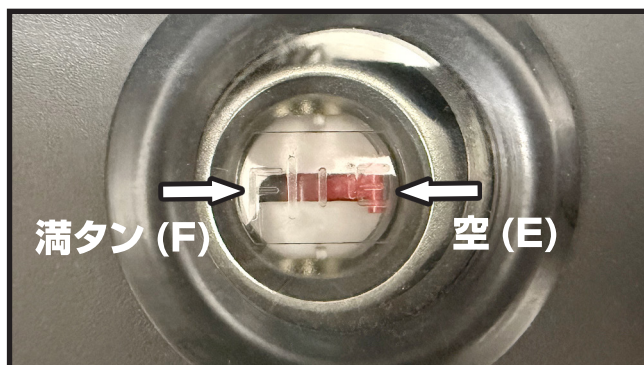
燃料タンクキャップつまみ



燃料タンク内と外気との通気を制御するための開閉装置です。発電機を運転・停止するときに操作します。操作は確実に「ON(開)」、「OFF(閉)」の位置にしてください。

- 「ON(開)」: 発電機運転時
- 「OFF(閉)」: 停止、運搬、保管時

燃料残量計



燃料タンク内燃料の残量は、残量計により確認できます。お使いになる前に、燃料が充分に入っていることを確認してください。

⚠ 注意

燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

排気口



排気口は、エンジンから排出された排気ガスが外部へ放出される出口です。

⚠ 注意

やけどの恐れがありますので、運転中および運転直後は触れないようご注意ください。

リコイルスタータークリップ



エンジンを始動させるときに使用します。

⚠ 注意

- 運転中に外したり、無理に引っ張らないでください。エンジンの突然停止や故障の原因になります。
- 周囲に引っかかって紐が破損しないように、まっすぐ引いてください。
- クリップおよび紐の部分に、亀裂・ほつれ・摩耗等の損傷がある場合は新しい部品に交換してください。

各部の取り扱い

3in1マルチスイッチ



エンジンの始動、停止およびチョークの切替を行う操作スイッチです。

- ・ 「**停止**」: エンジン停止位置。保管・運搬・点検・整備時は必ず本位置とします。
- ・ 「**運転**」: 通常運転位置。暖機後の始動(再始動・高温時)および運転中は本位置とします。
- ・ 「**チョーク**」: エンジンが冷えている状態からエンジンをかけるときに使用します。「チョーク」位置にして、リコイルスターターグリップを操作して始動させ、始動後にエンジンの回転が安定したら、速やかに「運転」位置へ戻してください。

※チョーク機能について

始動させる際に、エンジンに入る空気量を調整するための機能です。燃料と空気の混合比を変えることで、始動性を高めます。※¹

⚠ 注意 ※¹

・ エンジンが冷えている場合/寒冷時期:

冷えた状態では混合気を濃くする必要があるため、エンジン始動時は「チョーク」の位置にしてください。

・ エンジンが暖まった後の始動/暑い時期:

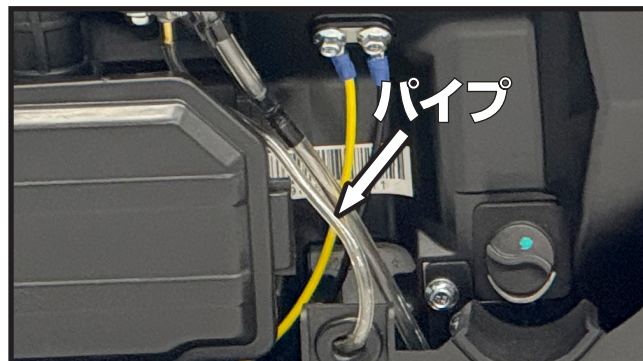
空気の密度が低く、混合気が自然に濃くなります。エンジン始動が容易に行えるよう、エンジン始動時は直接「運転」の位置にしてください。

キャブレター (気化器)



ガソリンや液化石油ガスなどの燃料を空気と適切に混合し、燃焼機関に供給する装置です。適切な空燃比を維持することで、安定したエンジンの始動・運転を実現します。

燃料排出用パイプ (オイルドレンパイプ)



燃料タンクやキャブレター内に残った古いガソリンや不要な燃料を安全に排出するための装置です。長期間使用しない場合や、燃料の入れ替えなどメンテナンス時に使用ください。

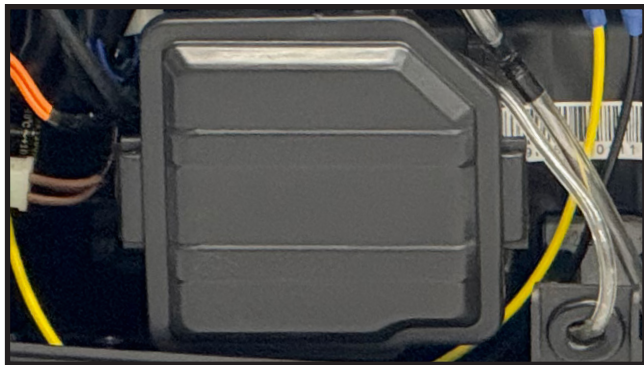
(P33~34 「キャブレターからの抜き取り」 参照)

⚠ 注意

- ・ 排出、交換作業は必ずエンジン停止後、十分に冷却された状態で行ってください。
- ・ 周囲に火気のない、風通しのよい屋外で作業してください。
- ・ 廃オイル、廃ガソリンは環境に配慮し、必ず適切な方法で処理してください。自治体の指示に従って廃棄をお願いします。

各部の取り扱い

エアクリーナー



エンジン内部に取り込まれる空気からホコリやゴミを除去し、きれいな空気を供給するための装置です。

⚠ 注意

- ・ エアクリーナーは定期的に清掃または交換してください。特に粉塵の多い場所での使用時は、点検頻度を増やしてください。
- ・ エLEMENTの整備不良により、キャブレターやエンジン内部に異物が入り、故障の原因となります。

エンジンオイル注入口



エンジンオイルを入れるときに、オイルキャップを外して、指定のエンジンオイルを注入してください。

(P19~20「エンジンオイルの給油」参照)

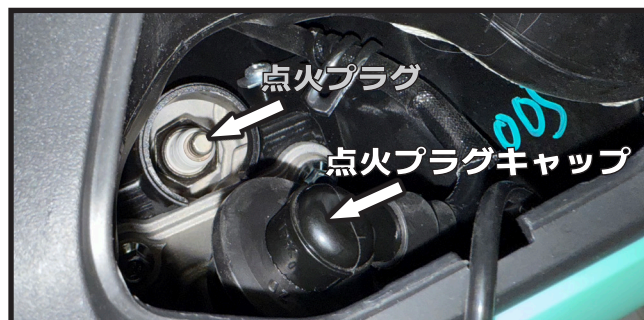
初回運転前および毎回使用前に、必ずオイル量を点検してください。また、定期的にオイルの交換を行ってください。

(P31~32「エンジンオイルの交換」参照)

点火プラグ



点火プラグは、予混合燃焼式内燃機関(エンジン)において混合気を火花放電により着火させ、燃焼を開始させる重要部品です。



点火プラグの点検・清掃を行う場合は、点火プラグメンテナンスカバーを開き、点火プラグキャップをまっすぐ引き抜いて取り外します。キャップの下に点火プラグ本体があります。

点火プラグの取り付けや取り外しを行う際は、付属品の点火プラグレンチをご使用ください。

(P34~35「点火プラグの点検・交換」参照)

⚠ 注意

- ・ 点火プラグの交換や点検は、必ずエンジン停止・冷却後に行ってください。
- ・ プラグまわりにゴミや砂が付着した状態で取り付けると、異物が内部に入る恐れがあります。清掃してから取り付け作業を行ってください。
- ・ 指定の点火プラグ品番は「E5TC」です。仕様の異なるプラグを使用した場合、エンジンの始動不良、出力低下、燃費の悪化、またはエンジン本体の損傷を引き起こす恐れがあります。

各部の取り扱い

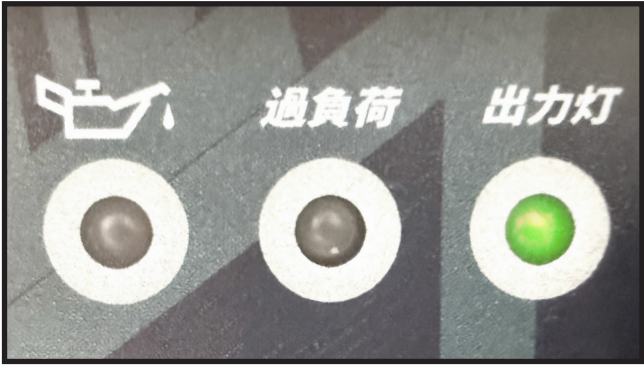
電力使用目安（交流）



電気の取り出し状況の目安を確認できます。

状態	電気の取り出し状況
90%点灯	最大の約90%以上の使用
50%点灯	最大の約50%～90%使用
30%点灯	最大の約30%～50%使用
表示しない	30%未満の使用

状態表示ランプ



オイル警告ランプ(赤)、過負荷警告ランプ(赤)、出カランプ(緑)の点滅により、発電機の状態を表示します。

- 「オイル警告ランプ(赤)」: エンジンオイル量の低下を警告する表示灯です。焼付き防止のためオイル警告機構が作動し、本ランプが点灯します。この状態でリコイルスターターグリップを引いてもエンジンはかかりません。エンジンオイル量を点検し、規定量まで補給してください。

(P19~20「エンジンオイルの給油」参照)

⚠ 注意

- エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れすぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。
- オイルを定期的に交換してください。オイル汚れなどにより、オイルアラート機能が誤作動する場合があります。エンジンの焼き付きや故障の原因となりますので、定期点検表のとおりオイル交換を行ってください。

- 「過負荷警告ランプ(赤)」: 下記に該当する原因で点灯します。(※エンジン始動直後、異常がなくても数秒間点灯します。)

原因	処置
交流コンセントから定格出力を超える電力が取り出された	負荷を減らす
使用している機器側に異常がある場合	使用の電気製品を点検する
排気口の詰まりにより、冷却不良に関連して保護動作につながるケース	清掃作業にする (P37参照)
発電機本体に異常がある場合	カスタマサービスセンターへ連絡してください

※本機は電気の供給を遮断し、電気が取り出せなくなりますが、エンジンは停止しません。ただし、急に大きな電気を取り出した時はエンジンが停止する場合があります。

⚠ 注意

過負荷警告ランプが点灯したとき解決と操作方法
(P16「交流出力復帰」を参照してください。)

- 「出カランプ(緑)」: 発電状態を確認できます。本機が起動し、接続した電気器具が正常に出力運転している時は緑色に点灯します。

各部の取り扱い

AC プロテクタ



ACプロテクタは、AC出力を過熱や過負荷から保護する装置です。その状況の場合は、自動的に電気の供給を遮断し、安全を確保します。

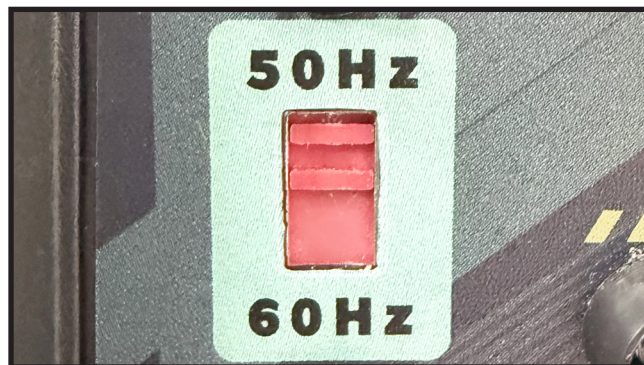
※再度使用する場合は、接続配線や使用量を確認した上でボタンを押して、「入」の状態にしてください。

- ・ 「切」: AC出力コンセントの温度が設定された保護温度を超えた場合、ACプロテクタボタンが自動的に飛び出して「切」になり、電気が取らせなくなります。
- ・ 「入」: AC出力コンセントの温度が規定範囲内で、接続配線や電気使用量に異常がない場合に、ACプロテクタボタンを押すことで「入」になります。電気が正常に取らせる状態です。

⚠ 注意

接続状況を改善せず、ACプロテクタを無理に「入」にすると過熱や故障の原因になります。必ず配線や使用電力を確認してから、規定の範囲内で使用してください。

周波数切替



周波数切替スイッチにより、出力周波数を「50Hz」または「60Hz」に切り替えます。

エンジンを始動する前に、接続する電気機器およびご使用地域に合わせて周波数を設定します。

※周波数の切替は、エンジン停止を確認してから行います。運転中の切り替えは禁止です。※¹

⚠ 注意

- ・ 周波数が異なる状態で使用すると、接続機器の故障や誤動作の原因となる場合があります。
- ・ 周波数の切り替えはエンジン停止中のみ行います。運転中の切り替えは禁止です。出力不調の原因となります。※¹
- ・ 電気機器の周波数が不明な場合は、機器の取扱説明書、もしくはメーカーへ確認します。

各部の取り扱い

ECO (エコ) モード



ECO(エコ)モードは、接続負荷(使用電力量)に応じてエンジン回転数を自動制御し、燃料消費および運転騒音の低減を図る機能です。負荷が小さいときは低回転で、負荷が増えると必要に応じて回転数が上がります。

- ・ 「ON(入)」: 電気製品を使用すると、自動的にエンジンは負荷の大きさに応じた回転数を制御となり、使用しないときは自動的に低速回転になります。低燃費及び低騒音を実現します。
- ・ 「OFF(切)」: エコモードを解除されます。電気製品の使用の有無にかかわらず、回転数制御は行いません。エンジンは定格回転で運転します。

⚠ 注意

- ・ 始動確保のため、エンジン始動時は OFF にしてください。
- ・ 大きな起動電流を要する機器(コンプレッサー、水中ポンプ等)を使用する場合は OFFにしてください。
- ・ 負荷変動が大きい・瞬間的に電力を要する場合はエコモードを使用しないでください。
- ・ エコモードで電気製品が正常に動作しない場合は、一時停止し、OFFで運転して状態を確認します。
- ・ 定格出力以下でも取り出し電流が大きい負荷では、エコモードのままでも通常運転に移行する場合があります。

交流出力復帰



過負荷発生により過負荷警告ランプ(赤)が点灯し、出力ランプ(緑)が消灯して交流出力が停止した場合、本ボタンを押して保護動作を解除します。正常に復帰すると出力ランプ(緑)が再点灯し、電気の供給が再開されます。

【ボタン押す前に、下記の内容を確認してください】

- ①使用中の電気機器をすべて取り外す/プラグを抜く。
- ②使用する電気機器の合計消費電力が定格出力範囲内であることを確認する。
(P8「主要諸元」の定格出力を参照してください。)
- ③接続配線・プラグ等に断線、損傷、ゆるみ、接触不良などの異常がないことを確認する。
- ④発電機本体の温度が異常に高くないことを確認する。
- ⑤各カバーが確実に取り付けられていることを確認する。

上記を確認のうえ、交流出力復帰ボタンを押し、出力ランプ(緑)の点灯を確認できれば、交流出力が再開します。

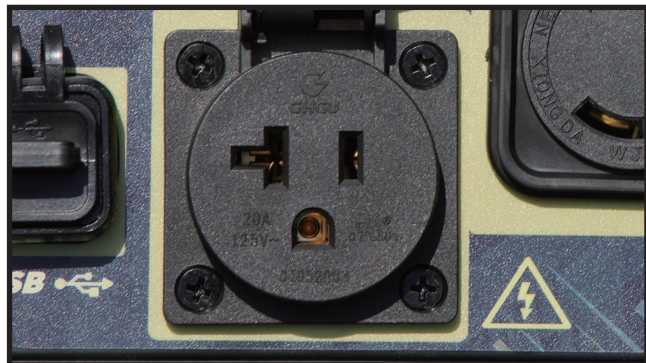
⚠ 注意

復帰しない／同症状が繰り返す場合:

負荷過大、使用機器側の異常、吸気・冷却不良などが考えられます。負荷を減らし、原因を取り除いてから復帰操作を行ってください。

各部の取り扱い

交流ACコンセント100V20A



本製品では交流AC出力コンセントから交流100V20Aの電力を供給することができます。

差し込みと取り出し方はP25～26「電気の取り出し方」を参照してください。

※過負荷状態で使用すると、安全装置が作動し出力が停止する場合があります。

交流ACコンセント100V30A



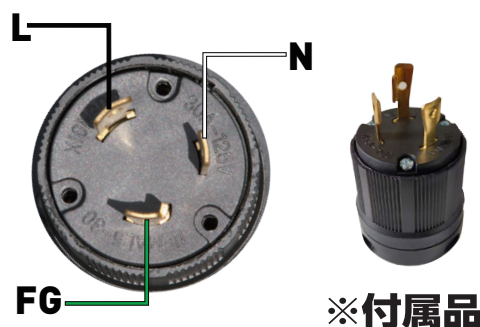
消費電力が2000W以上の電気機器に給電した場合、このコンセントを使ってください。また、NEMA規格L5-30Pの変換アダプタ、もしくは付属品のプラグを使用してください。

※消費電力の合計3000Wを超えないようにしてください。

⚠ 注意

- ACコンセントご使用の際は、接続する機器の合計消費電力が、本機の定格出力を超えないことを必ずご確認ください。
- 接続中はプラグの差し込みが不完全な状態で使用すると、接触不良による過熱・発火のおそれがあります。
- 雨天・高湿度・水気のある場所での使用は避けてください。感電やショートのおそれがあります。
- 焦げ臭い、発熱、出力が不安定等の異常を感じた場合は、直ちに使用を中止し、原因を確認してください。

付属のL5-30Pプラグ



※刃の方向より見た場合

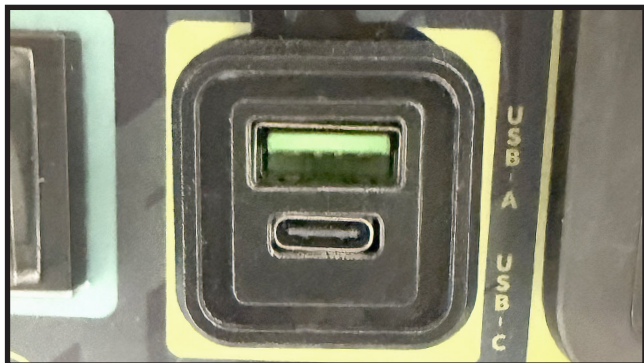
- L端子: 黒線
- N端子: 白線
- FG端子: 緑線

⚠ 注意

- 配線作業を行う際は、各端子へ正しく接続してください。誤った配線は故障や感電の原因となるおそれがあります。
- 配線作業は、必ず電気に関する十分な知識を有する者、または電気工事士資格を有する者が実施してください。資格のない者による作業は重大な事故や故障の原因となります。

各部の取り扱い

USB出力端子



本機にはUSB-AおよびType-Cの出力ポートを搭載しています。

これらのポートを使用して、スマートフォン、タブレットなどの直流対応USB機器への充電が可能です。

アース端子



感電防止のためにアース線を接続する端子です。本機に接続する電気機器がアース付きプラグを使用している場合は、本機も必ず接地(アース)を行ってください。

※電気設備技術基準により、アース棒を選定し接地してください。※¹

⚠ 注意

- ・ アース端子からの接地工事は必ず電気工事士の資格を有する人が実施してください。※¹
- ・ 避雷針用接地場所から2m以内の場所には埋設しないでください。

並列運転端子 (交流用)



同一仕様の発電機2台を並列運転ボックス/並列運転コード(別売)で接続し、出力増強を行うための接続端子です。

※他社製発電機・異なる機種との接続は不可です。
(KEHシリーズの「KEH3000i<本製品>」、「KEH2000i」と「KEH3800i-RT」の並列運転が可能です。)

(P27～28「並列運転」の内容を参照してください。)

接続には、必ず専用の「並列運転ボックス(別売部品)」、または「並列運転コード(別売部品)」をご使用ください。部品は、お買い上げの販売店にご注文ください。

⚠ 注意

- ・ 誤った接続や不適合な部品を使用すると、機器の破損や重大な事故につながる恐れがあります。
- ・ 発電機運転中のコネクター抜き差しは禁止。接続は始動前、取り外しは停止後に行います。
- ・ 2台を並べて設置する際、排気が互いに当たる配置は不可。過熱・火災、ならびに一酸化炭素滞留リスクが増大します。必ず2台発電機の排気方向をずらし、十分な離隔と換気を確保してください。

使用前の準備

⚠ 警告

🚫 禁止

- エンジンオイルが給油されていない状態、またガソリン燃料給されていない場合/ガス接続されていない場合は、始動しないでください。
- 燃料が漏れたり、こぼれたままの状態ではエンジンをかけないでください。
- 運転時、給油時、喫煙などの火気を発生させないでください。
- 傾斜地で使用しないでください。本機は必ず平坦で安定した場所に設置してください。

❗ 指示

- オイルや燃料を補給する時は必ずエンジンを停止し、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料をこぼさないように注意してください。必ず規定量以内で給油してください。
- 工場出荷時には一切のオイルが給油されていません。ご使用前に、必ず給油してください。
- 建物および他の設置物から1m以上離れてください。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてください。

エンジンオイルの給油

取り扱いのポイント

※エンジンの運転には、エンジンオイルが必要です。本機は出荷時にエンジンオイルが給油されておりませんので、必ずご使用前に給油してください。

※本機の水平を保ったまま給油してください。

推奨オイル	SAE10W-30/SAE10W-40 4サイクル用エンジンオイルSE級以上
オイル容量	0.4L

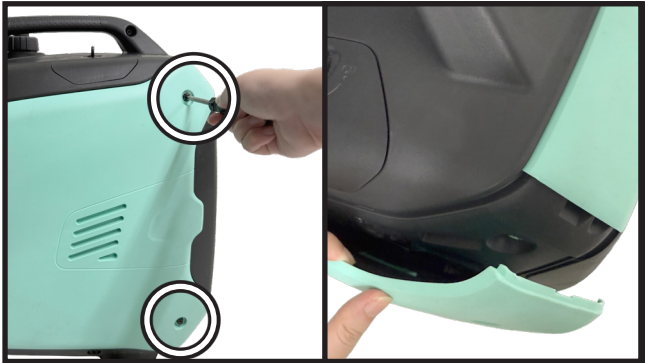
- 入れにくい場合は、オイルじょうごを用意してください。
- 初回は、運転開始後1か月または運転時間20時間のいずれか早い時点でエンジンオイルを交換してください。交換を行わないと、潤滑性能の低下により焼付き等の重大な損傷が発生するおそれがあります。
- 交換作業中にこぼれたエンジンオイルは、必ずきれいな布などで拭き取ってください。放置すると、火災や機器の劣化の原因となるおそれがあります。

- 2回目以降の交換は、「定期点検表」(P30参照)に従って実施してください。交換手順は「エンジンオイルの交換」(P31～32参照)をご確認ください。

⚠ 注意

- 本機を傾けた状態で給油しないでください。機体が傾いたまま給油すると、適正な油量管理ができず、規定量を超えて充填されるおそれがあります。
- 規定量以上のオイルが入れて始動すると、エンジンから白煙が出たり、排気口が詰まり、エンジン停止などの不具合を招き、故障の原因となります。

給油



①本機側面のカバーのネジ（2か所）をゆるめ、カバーを取り外します。

KEH3000i | 19

使用前の準備



② オイル給油キャップを外します。

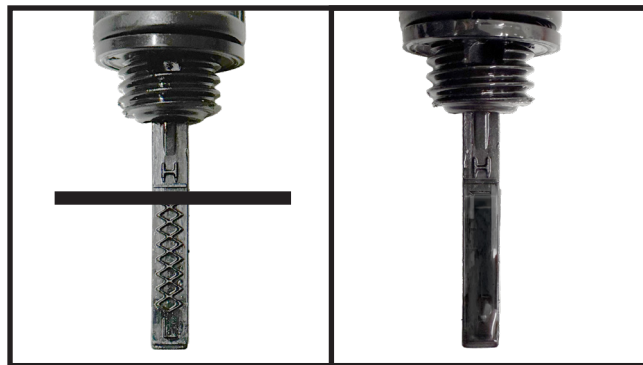


③ 付属のじょうごを用意して、本機を水平にして給油口の口元まで給油します。

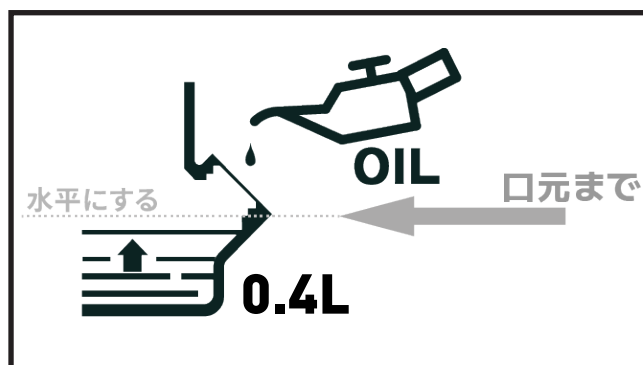
※こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。放置すると発煙・発火の原因となります。



④ オイル給油キャップを一旦締め付け、再度外します。



⑤ オイルがオイルゲージ上の位置を確認します。オイル量は必ず所定範囲内に調整してください。少ない時は、新しいオイルを補給します。また、オイルゲージの「H(HIGH)」の位置を超えないでください。



- ・「**規定量超過**」の場合：入れすぎの状態では始動すると、白煙の発生、リコイルスターターが重くて、引けないなど不具合の原因となります。
- ・「**規定量未滿**」の場合：エンジンがかからない、エンジンが焼き付く、黒煙の発生などのトラブルにつながる可能性があります。



⑥ 給油したらオイル給油キャップを確実に締め付けます。本機のカバーを取り付けます。

使用前の準備

警告



禁止

- 軽油、灯油、粗悪なガソリンなどを給油したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。エンジンの故障や性能低下の原因となります。
- 古いガソリンや長期間保管されたガソリンは使用しないでください。エンジンの始動不良や不調の原因になります。
- ガソリンを一時的に保管・運搬する際は、消防法に適合した専用の携行缶をご使用ください。特に、ペットボトルなどの容器への保管は絶対に行わないでください。ペットボトル内にガソリンを入れると、容器の成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。



指示

- 毎回ご使用前には、必ず燃料タンク内のガソリン残量を確認してください。
- 給油を行う際は、必ず燃料フィルターをご使用ください。異物混入を防ぎます。
- 燃料を長期間保管する場合は、タンクから燃料を抜き取り、換気の良い場所で保管してください。気温変化や湿気によって燃料が劣化し、始動不良やエンジン内部の腐食を引き起こすおそれがあります。
- 夜間や暗い場所で給油を行う場合は、必ず懐中電灯など安全な光源を使用してください。火気のあるランタンやマッチ、ライターなどは絶対に使用しないでください。

燃料の給油

取り扱いのポイント

※本機は出荷時に燃料は入っておりませんので、必ずご使用前に給油してください。

※給油作業を行うとき、必ず本機を水平にしてください。

使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
タンク容量	7.0L

- 給油は、換気の良い屋外で行ってください。
- 2回目以降の使用時にタンク内にガソリンが残っている場合でも、劣化している可能性があります。品質劣化による不具合を防ぐためにも、30日に1回を目安に、新しいガソリンに交換してください。
- 給油作業中は、タバコの火やその他の火気を近づけないでください。また、金属部品に触れるなどして、身体に帯電した静電気を確実に除去したうえで給油作業を行ってください。



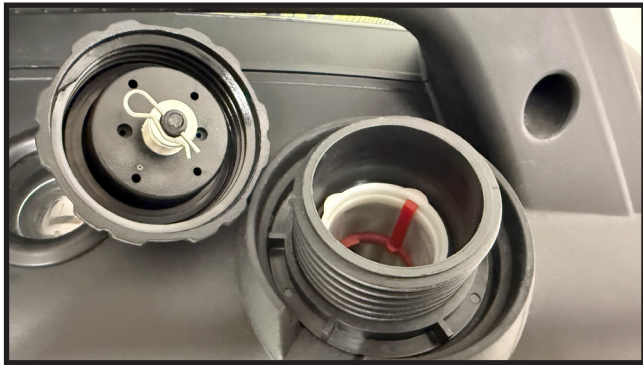
注意

- 必ず無鉛レギュラーガソリンをご使用ください。高濃度アルコールを含む燃料や、有機溶剤を含む燃料を使用すると、エンジンおよび燃料系統を損傷する原因となります。
- エンジンが熱い状態では、絶対に給油しないでください。エンジン停止直後など、本体が高温のときに給油を行うと、引火・火災の原因になるおそれがあります。
- 水・雪・ホコリ・ゴミなどが燃料タンク内に入らないよう十分にご注意ください。

ガソリンの給油



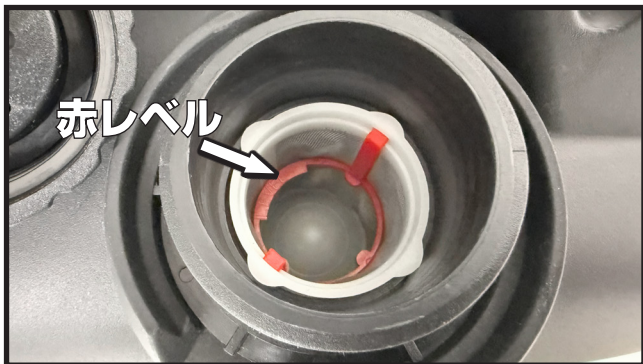
使用前の準備



①燃料タンクキャップを外します。



③給油したら燃料キャップを確実に締め付けます。



②ガソリンをストレーナーの赤レベルまで給油してください。※¹

※燃料は必ずストレーナーの赤レベル以下まで給油してください。超えると、燃料が漏れるおそれがあります。

※ガソリンの残量が少ない場合は、エンジンが始動しないことがあります。使用前には、燃料残量を十分に確認してください。

⚠ 注意

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを使用してください。他の燃料を使用するとエンジン故障の原因になります。
- 給油時、給油口に必ずストレーナー装着してください。※¹
- 燃料がこぼれた時は、きれいな柔らかな布で完全に拭き取ってください。
- 万が一、燃料を誤って飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、目に入った場合は、ただちに医師の診察を受けてください。
- 衣類に燃料が付着した場合は、石鹸と水で直ちに洗い、汚染された衣類はすぐに着替えてください。

使用方法

警告

禁止

- ・ 換気や風通しが不十分な場所や、排気ガスがこもる場所では、絶対にエンジンを始動しないでください。有害な酸化炭素がたまって中毒や死亡事故の原因となるおそれがあります。
- ・ エンジンを始動する前に、電気機器を接続しないでください。始動時の電圧変動により、機器の誤作動や故障の原因となる可能性があります。
- ・ 本機が移動・横倒し・落下・破損などしないよう、安定した平坦な場所に設置してご使用ください。特に横倒しの状態で運転を行うと、エンジンが始動しなくなるなど、故障の原因となります。
- ・ 本機を傾けないでください。オイル漏れや故障の原因となります。
- ・ 長時間「チョーク」位置にすると、エンジンがかからない、点火プラグのかぶり等を招き、エンジン不調や、故障の原因となります。
- ・ 運転中は、始動グリップを絶対に引かないでください。エンジンに悪影響を与える可能性があります。

指示

- ・ ご使用前に、必ず規定量のオイルを補給してください。
- ・ 燃えやすい物や、危険物は発電機の周辺に置かないでください。
- ・ 建築物および他の設置物から1 m以上離れてください。また、排気口を壁に向けなくて、風通しの良い、広い場所に向いてください。
- ・ エンジンを始動する前に電気製品を接続しないでください。
- ・ リコイルスターターグリップは、勢いよく引いてください。始動時の回転が速くなると、点火火花エンジンがかかります。エンジンの回転が遅いと、点火火花が飛ばず、エンジンがかからないことがあります。
- ・ リコイルスターターハンドルを数回引いてもエンジンが始動しない場合は、約20分間、発電機を換気の良い場所に置き、再度始動をお試しください。
- ・ 気温が10℃以下の場合は、3～5分程度暖機運転を行ってください。

エンジンのかけ方

※始動の前に、エコモードスイッチが「切」であることを確認してください。

※始動の前に、使用する電気製品の周波数と、本機設定の周波数と一致していることを確認してください。



①燃料タンクキャップつまみのクリップを「ON」の位置に切り替えます。



②3in1マルチスイッチを「チョーク」に合わせます。

※エンジンが暖まった後の再始動時、または環境温度が高い場合は直接「運転」の位置からにしてください。

【チョークの目的】

空気の流入を制限し、燃料が濃い状態になります。

- ・ 燃料が気化しやすくなり、エンジンがかかりやすくなります。
- ・ 特にエンジンが冷えているときと、外気温が低いときは操作が必要です。

使用方法

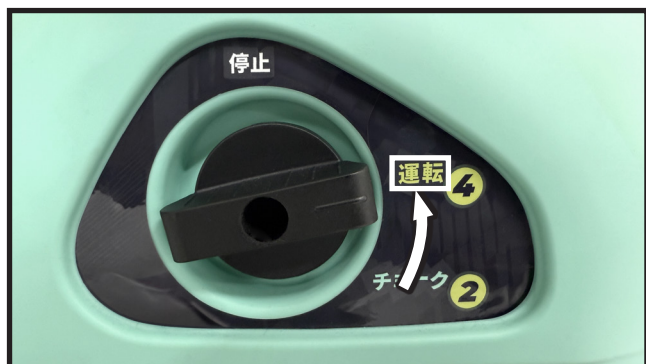


③リコイルスタータークリップを軽く引き出し、重くなったことを感じたところから勢いよく引いてエンジンを始動させます。

始動したら、リコイルスタータークリップを手を添えてゆっくりと元に戻してください。※¹

⚠ 注意

- ・ 引く勢いが足りないと、始動時エンジンの回転が遅く、点火・燃焼が成立しないため、エンジンがかからないことがあります。
- ・ 運転中はグリップを引かないでください。エンジンが破損する原因となります。
- ・ グリップは、必ず指定された方向に引ってください。無理な方向への操作は、ロープの寿命を著しく縮めます。
- ・ 始動後直接クリップを放すとスタータ機構の損傷原因となります。※¹



④3~5秒後、エンジンの回転が安定したら、3in1マルチスイッチを「運転」の位置に戻します。



⑤出力ランプ(緑)が点灯されているかを確認します。



⑥使用状況に応じてECOモードスイッチを「入」/「切」に切り替えます。

(P16「ECO (エコ) モード」を参照してください。)

使用方法

警告



禁止

- 電力会社の電気配線には絶対に接続しないでください。守らないと火災・感電・人身事故の原因となるほか、本機および接続された電気機器の故障につながるおそれがあります。



指示

- コンセントにほこり、水分、汚れが付着している場合は、必ず取り除いてから使用してください。
- 接続する電気製品は、必ず本機の定格電圧および電流範囲内でご使用ください。

注意



禁止

- 本機は接続された電気製品の負荷に応じて電圧が変動するため、電圧変化に敏感な製品は使用しないでください。
- 欠陥のある電気製品(コード・プラグ破損、接続部のゆるみ等)は接続しないでください。故障・感電・火災の原因となります。
- 電気製品の合計負荷(交流・直流の合計)が発電機の定格出力を超えないようにしてください。定格出力を超える過負荷状態での使用は、発電機の故障や損傷の原因となります。
- 接続する電気製品のスイッチが切れていることを確認してください。電気製品のスイッチが入っていると、電気製品が急に動作し、思わぬケガや事故を引き起こす原因となります。



指示

- 接続の可否が不明な場合は、必ず電気製品会社にご相談ください。
- 電気工具類・汎用モーター類の一部では、起動電流が大きく、取り出し可能範囲内の出力でも使用できない場合があります。このような場合は、必ず電気製品会社にご相談ください。
- 医療機器の使用については、必ず事前に医療機器メーカー・医師・病院等にご確認のうえご使用ください。
- 延長コードを使用する場合、延長コードの断面積1.5mm²のときは60m以下、2.5mm²のときは100m以下のものを使用してください。接続する電気製品の仕様を確認してください。

電気の取り出し方

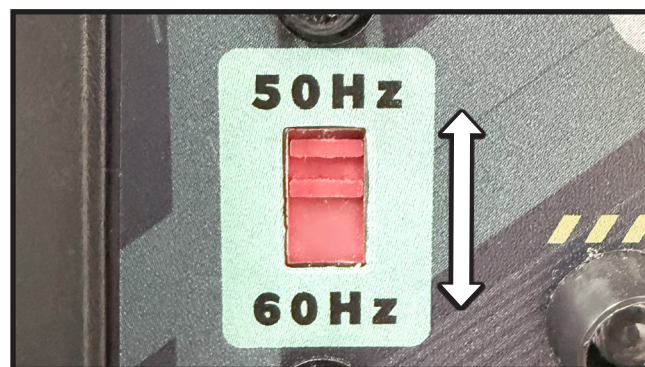
交流電源AC(100V)・電気製品の接続

①アース端子の接続

接続する電気機器がアース付き(3極)プラグの場合は、本機もアース端子から必ず接地(アース)してください。

注意

アース棒は別途準備すること。また、接地工事は電気設備技術基準に適合する方法で、有資格者(電気工事士)による施工をしてください。



②周波数の調整(交流の場合)

接続する電気製品の定格周波数(50Hz/60Hz)を確認し、その表示に合わせて、周波数切替スイッチを設定します。

(P15「周波数切替」参照)

使用方法

⚠ 注意

- ・ 周波数の切り替えは、エンジン停止時のみ行います。運転中に切り替えると、電気製品の故障の原因となるおそれがあります。
- ・ 周波数が不明な機器は、機器メーカーへ確認のうえ使用する。誤設定は機器故障の原因となります。
- ・ 異なる周波数で使用すると、動作不良・過熱・故障の原因となる場合があります。

⚠ 注意

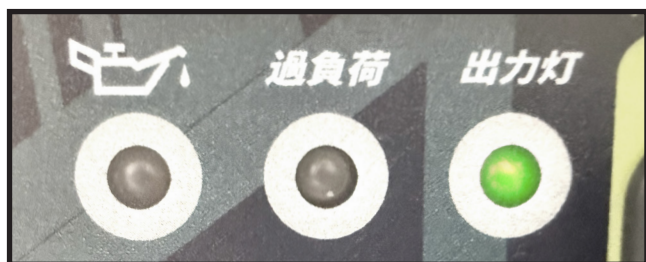
電気製品のスイッチが入ったまま、コンセントに差し込むと、電気機器が急に動作し、思わぬけがや事故を引き起こす原因となります。

プラグを差し込む際は奥までしっかり差し込み、引掛形・抜き形器具は確実に回転をさせてください。プラグの半差し込みや半回転は、発熱や火災の原因となります。

③発電機の運転

「エンジンのかけ方」に従って発電機を始動します。

(P23～24参照)

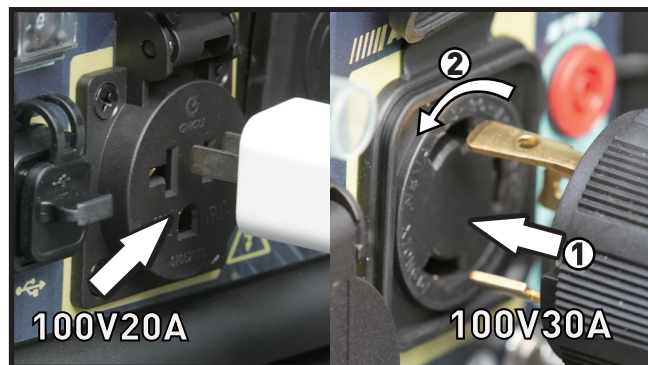


④出力ランプの点灯

始動後、出力表示ランプ(緑)の点灯を確認してから、電気機器の電源を入れて使用します。

⚠ 注意

始動直後は異常がなくても過負荷ランプ(赤)が数秒間点滅する場合がありますが、これは異常ではありません。



⑤電気製品の接続

接続する電気製品のスイッチが切れていることを確認し、電気製品のプラグを確実にACコンセントへ差し込みます。

⑥電気製品の使用

電気製品のスイッチを入れて、使用を開始します。

※合計出力および合計電流(30A)は、本機の定格負荷以下で使用する場合出力ランプが緑に点灯します。

※出力ランプ(緑)が点灯せず、過負荷警告ランプ(赤)が点灯している場合はP14を参照してください。



⑦使用電力量のチェック

運転中は「電流使用目安」ランプを常時確認し、接続負荷が本機の定格出力を超えない範囲で使用してください。

(P14「電力使用目安(交流)」参照)

- ・ **過負荷運転の場合:** 接続する電気機器が異常を起こした場合は、過負荷警告ランプ(赤)が点灯し続け、電気が取り出せなくなります。接続機器の電源を切り、取り外したうえで「出力復帰ボタン(交流用)」P16を参照してください。

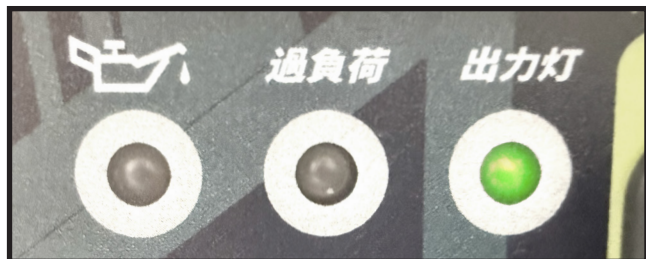
使用方法

直流電源DC (USB-A/TYPE-C)

①発電機の運転

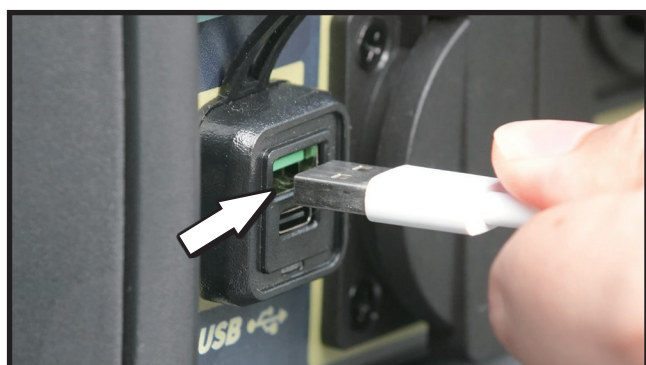
「エンジンのかけ方」に従って発電機を始動します。

(P23～24参照)



②出力ランプの点灯

始動後、出力表示ランプ(緑)の点灯を確認してください。



③USB出力端子の使用

電気製品のUSB-A/TYPE-Cプラグを対応の出力端子に確実に差し込みます。

並列運転

並列運転とは、2台以上の発電機を並列運転用コネクターで接続し、一体の電源として運転する方式です。単機運転に比べて取り出し可能な交流出力(容量)を増大させることができます。(P18「並列運転端子(交流用)」参照)

⚠ 注意

- 指定された発電機(KEH2000i/KEH3000i/KEH3800i-RT)以外、絶対に並列接続しないでください。
- 並列運転用部品は、必ずエンジン始動前に接続し、エンジン停止後に取り外してください。

並列運転 ボックス

※別売り内容



並列運転 コード

※別売り内容



①並列運転用部品の準備

並列運転には、必ず専用の並列運転用部品(別売)を使用します。適合部品は、お買い上げの販売店よりお問い合わせください。

使用方法



②周波数の設定

並列運転を行う2台の発電機は、周波数を一致させます。

(P15「周波数切替」参照)



③並列運転用部品と発電機との接続

並列運転用部品(別売)を使用し、2台それぞれの発電機の並列運転端子へ確実に接続し、アース線をアース端子へ接続します。



注意

並列運転用部品に黒コード先端を黒色の並列運転端子に、赤コード先端を赤色の並列運転端子に差し込んでください。

④発電機の始動

「エンジンのかけ方」に従い、2台の発電機を始動し、出力ランプ(緑)が点灯することを確認します。

(P23～24参照)



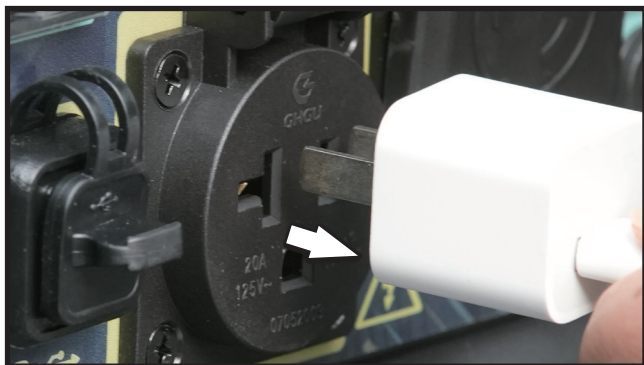
⑤電気製品の接続

電気製品のスイッチが切れていることを確認し、並列運転用部品のコンセントに電気製品のプラグを確実に差し込みます。



使用方法

発電機エンジンの止め方



①電気製品のスイッチを切り、電気製品のプラグを本発電機のコンセントから抜きます。



②ECOモードスイッチを「切」の位置にします。



③3in1マルチスイッチを「停止」の位置にします。



④燃料タンクつまみを「OFF(閉)」にします。

⚠ 注意

- 3in1マルチスイッチを「停止」にしたが、運転を続ける場合は、マルチスイッチは確実に「停止」のところに正しく合わせられてになっているかを確認してください。「停止」にしても運転を続けると故障の可能性があります。
- エンジン停止直後は、エンジン本体、排気口周辺などが熱くなっています。手足で直接触れないでください。やけどにご注意ください。
- 直射日光を避け、火気の無いところに置いてください。

保守と点検

定期点検表

警告

- 点検整備作業をする時は、必ずエンジンを停止してから行ってください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いいたします。
 - すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。各部より油漏れがないか確認してください。
 - 作業はエンジンが完全に冷えてから行ってください。
- 交換する部品は当社の指定する部品以外のもを使用しないでください。
 - 業務用途などで本機を使用する場合、通常よりも短い周期でのメンテナンスが必要となり、急な故障や保証できないトラブルが発生する可能性があります。
 - 作業は平らで安全な場所で行ってください。

対 象	点 検 項 目	運転前の点検	初回の1ヶ月後又は 20時間運転	3ヶ月毎又は 50時間運転毎	6ヶ月毎又は 100時間運転毎	1年毎又は 300時間運転毎
燃 料	ガソリン量、漏れ	●				
燃 料 タ ン ク ス ト レ ー ナ ー	汚れ、詰まりの 点検				●	
燃 料 配 管 部	亀裂、損傷の確認	●				
	交換					●
エ ン ジ ン オ イ ル	量の点検	●				
	交換		●		●	
エ ア ク リ ー ナ ー	清掃	●				
	交換			●		●
点 火 プ ラ グ	清掃				●	
	交換					●
排 気 口	清掃			●		
外 装	取り付けボルトのゆるみ確認			●		

- ①点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のいずれか早い方で実施してください。
- ②ホコリの多い環境でご使用の場合は、エアクリーナーの清掃を10時間運転毎、または1日1回を行ってください。
- ③安全に作業を行うため、メンテナンスは、適切な工具および整備技術を必要とします。
- ④点検表示時間を超過した場合は、速やかに点検を実施してください。
- ⑤部品に傷や亀裂がある場合は、交換してください。
- ⑥非常用電源等として常用せず、緊急時の使用が想定される場合は、月1回を目安に試運転を実施してください。燃料およびエンジンオイルは長期保管で劣化し、エンジンがかかりにくくなり、不調など故障の原因となります。

保守と点検

点検と整備

警告



禁止

- ・ 保管、運搬、点検、整備を行うには、屋内や換気の悪い場所では絶対に行わないでください。
- ・ エアクリーナーの交換は、エレメントスポンジ以外の部品を使用しないでください。
- ・ 作業は必ずエンジンを停止し、完全に冷えた状態で行ってください。エンジン停止直後は各部が高温になっており、やけどの危険があります。
- ・ 本機を水洗いしないでください。



指示

- ・ 点検整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。
- ・ 機械内部品は時間の経過とともに自然劣化します。定期点検表(P30参照)に従い、定期的に交換してください。
- ・ 作業に使用する工具は、必ず用途やサイズの合ったものを使用し、自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。

エンジンオイルの交換

※事前に排出されるエンジンオイルを受けるための容器を用意してください。

※エンジンオイルが汚れていると、エンジンの寿命を著しく縮める原因となります。定期的に点検・交換を行い、適正なオイル量を維持してください。

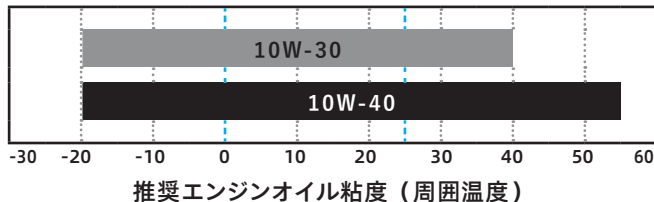
※エンジンオイルは使用しなくても自然に劣化します。P30「定期点検表」に従って定期的に点検・交換を行ってください。

※低温時など、エンジンオイルが完全に冷えていて排出しにくい場合は、エンジンを2～3分間暖機運転してから停止してください。オイルが少し温まり、排出しやすくなります。

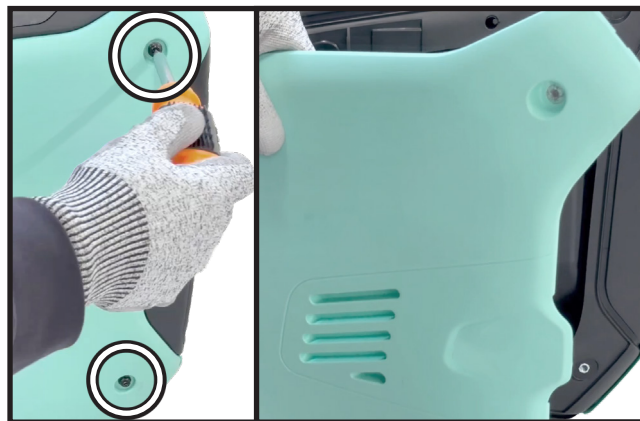
注意

- ・ SE級以上のオイルを使用してください。エンジンが焼き付き、故障の原因となります。
- ・ 指定外のオイルを使用したことによるエンジンの焼き付きは保証の対象外です。

推奨オイル	4サイクル用エンジンオイル SAE10W-30/SAE10W-40API分類SE級以上
オイル容量	0.4 L



※使用地域の平均外気温が図の適用温度範囲内であれば、図示粘度以外でも、API規格(同等規格)に適合する4サイクルエンジンオイルを使用できます。粘度は使用環境温度に応じて選定してください。



①左側のカバーのネジ(2か所)をゆるめ、手前に引いてカバーを取り外します。

※ネジやカバーなどを無くさないようにご注意ください。

保守と点検



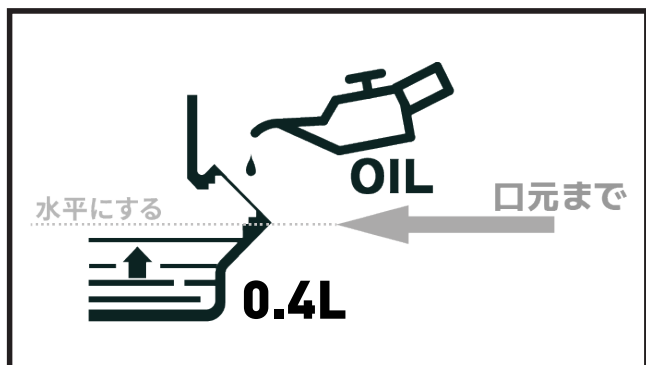
②オイル給油キャップ(オイルゲージ)を外してください。



③発電機本体を傾斜させ、エンジンオイルを排出します。
※オイルが抜き切れていることを確認します。



④本機を水平に保持し、付属のじょうごで新しいエンジンオイルを規定量(注入口の口元まで)給油します。



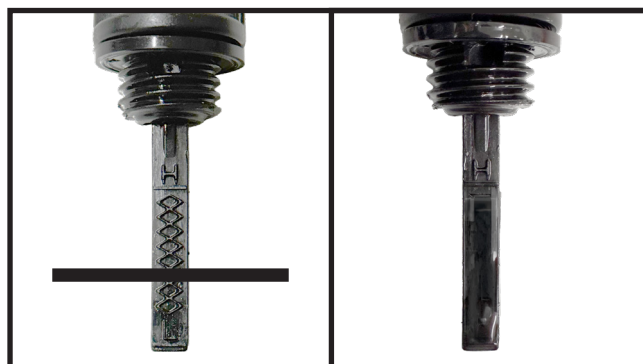
※規定量以上に給油しないでください。

※【エンジンオイル量が超過の場合】:

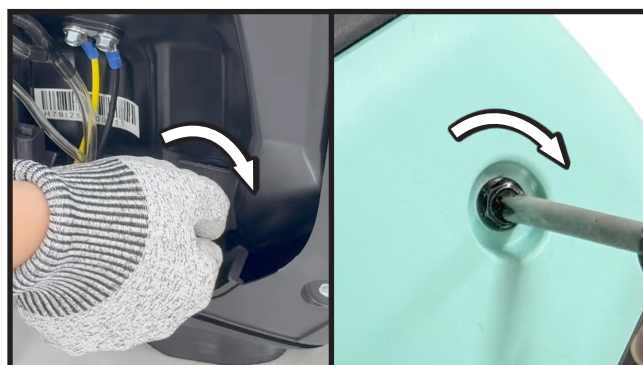
入れすぎの状態では始動すると、エンジンが停止する、白煙が出る、リコイルスターターが引けないなど、不調の原因となります。

※【エンジンオイル量が不足の場合】:

エンジンがかからない、エンジンが焼き付くなどのトラブルにつながる可能性があります。



⑤オイル量がオイルゲージの半分以下の場合、オイル不足の可能性がありま。



⑥オイル給油キャップをゆるまないように確実に取り付けます。カバーを取り付け、固定ねじを締め付けます。

⚠ 注意

- ・ オイルの廃液は、法令(公害防止条例)に従って適切に処理します。不明な場合はオイルの購入店にご相談ください。
- ・ こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

保守と点検

ガソリンの抜き取り

※排出したガソリンを受けるため、事前に耐油性容器を用意してください。

※ガソリンは揮発により自然劣化します。目安として30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。

燃料タンクからの抜き取り



①燃料タンクキャップを開けます。



②ストレーナーを取り外します。



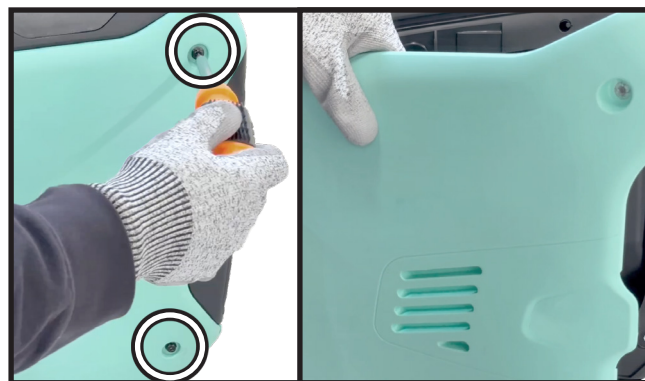
③手動式ガソリン用ポンプ(市販品)を使用して燃料を抜き取ります。※電動ポンプは使用しないでください。



④タンク内の燃料が完全に排出されたことを確認し、ストレーナーを取り付け、燃料タンクキャップを確実に締めます。

キャブレターからの抜き取り

※燃料タンクを空にしても、キャブレター(気化器)内部に燃料(廃ガソリン)が残留する場合があります。保管・再使用時の始動不良や不調を防ぐため、必要に応じてキャブレター内の燃料も抜き取り、空にしてください。

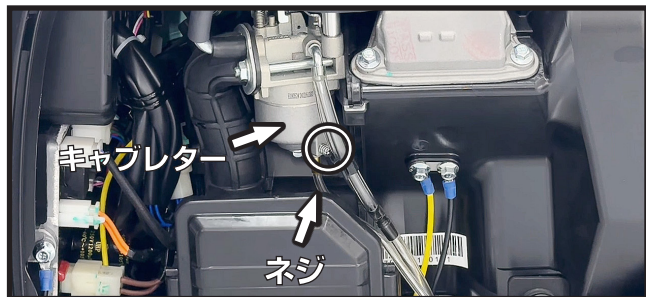


①左側のカバーのネジ(2か所)をゆるめ、手前に引いてカバーを取り外します。

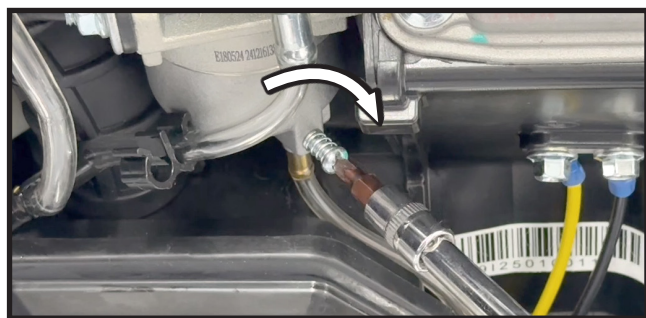


②本機下半部にある廃油排出用パイプからガソリンが排出されます。事前に用意した耐油性容器でガソリンを受けます。

保守と点検



③ドライバーでキャブレター（気化器）下部のネジをゆるめます。※完全に取り外さないでください。



④排出が完了後、ドライバーでネジをしっかりと締め直してください。カバーを取り付けます。

※ 排出後、ホースおよび接続部に漏れがないかを必ず点検してください。

⚠ 注意

- ・ 電動式ポンプは使用しないで、引火の原因となります。
- ・ 作業中は火気厳禁です。近くでタバコを吸ったり、火花や静電気を発生させないでください。
- ・ 抜き取った廃ガソリンの処理は環境保護のため法令に従い適切に処理してください。

点火プラグの点検・交換

※点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗していたりすると、完全な点火が飛ばず、エンジンの始動不良や不調の原因となります。点火プラグは徐々に劣化するため、定期的を外して点検を行ってください。

指定 点火プラグ	E5TC
-------------	------

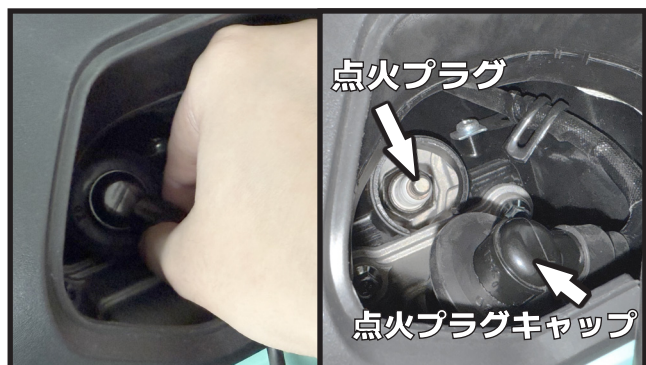


①点火プラグメンテナンスカバーのロックを回して解除し、カバーを取り外します。

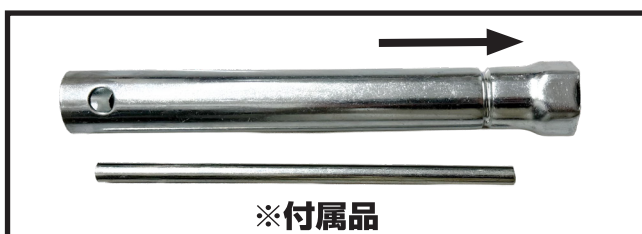


※点火プラグメンテナンスカバーを外したら、図で示したように点火プラグキャップが確認できます。

保守と点検



② 点火プラグキャップを外します。



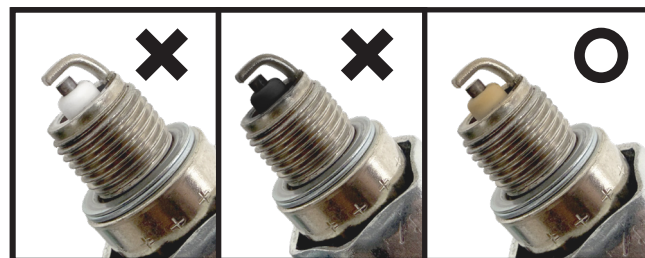
③ 付属のプラグレンチを使用し、レンチの六角部が下になるようにして、点火プラグにかぶせるようにして差し込みます。



④ 付属のプラグレンチハンドルと点火プラグレンチを組み合わせて、点火プラグを反時計回りに回して取り外します。※¹※²



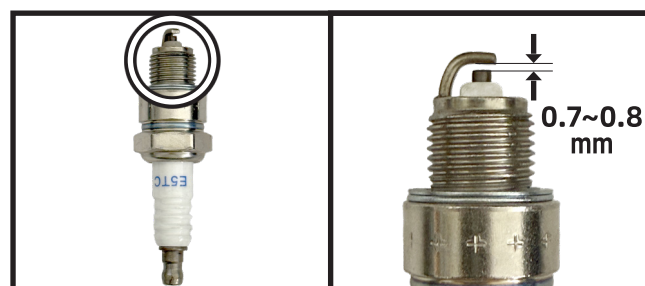
⑤ 点火プラグ電極部が濡れている場合や汚れている場合は、真鍮ブラシ(市販品)などで清掃します。



⑥ 電極付近が黒くなったり白く焼けている場合は、エアクリナーのエレメントを清掃してください。

(P36「エアクリナーの清掃」参照)

※通常はキツネ色(茶色)に焼けます。



⑦ 電極のすき間を確認し、上記寸法になっていない場合は調整します。

※点火プラグの清掃やすき間調整をしてもエンジンがかからない場合は、新しいプラグに交換してください。

⑧ 電極部分を下にして、点火プラグを元の場所に慎重にねじ込みます。プラグレンチをセットし、点火プラグを確実に締めます。最後は、点火プラグメンテナンスカバーを取り付けます。

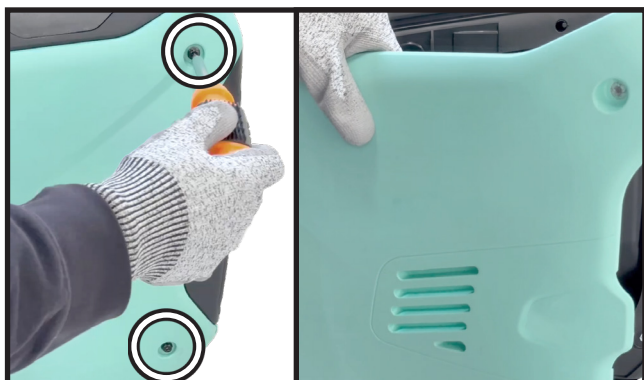
⚠ 注意

- 故障の原因となるため、指定以外の点火プラグを使用しないでください。
- ヤケドを防ぐため、作業はエンジンが十分に冷えた状態で行ってください。
- 点火プラグを脱着する際は、碍子(がいし/白い陶器部分)を破損しないよう十分にご注意ください。碍子が損傷すると、電気が漏れて火災や故障の原因となります。※¹
- 点火プラグを外す際は、最初に強い力が必要です。ケガをしたり、機器を倒したりしないようご注意ください。※²

保守と点検

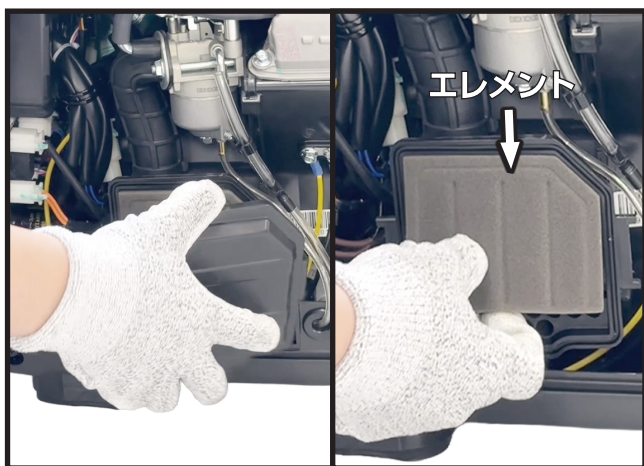
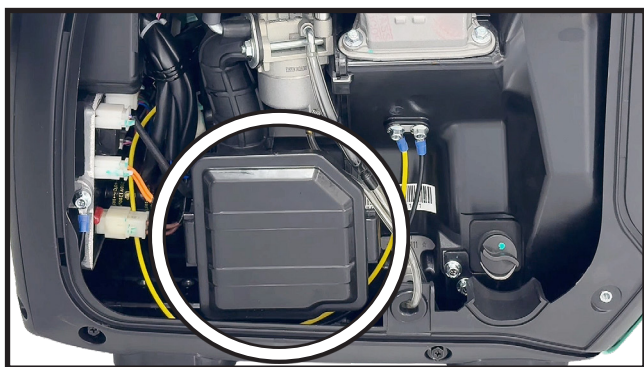
エアクリーナーの清掃

※エアクリーナーが汚れて目詰まりすると、出力の低下や燃料消費量の増加につながるため、定期的に清掃を行ってください。特に、ほこりの多い環境で使用する場合は、10時間運転ごとまたは1日1回の清掃を行ってください。



①左側のカバーのネジ(2か所)をゆるめ、手前に引いてカバーを取り外します。

※ネジやカバーなどを無くさないようにご注意ください。

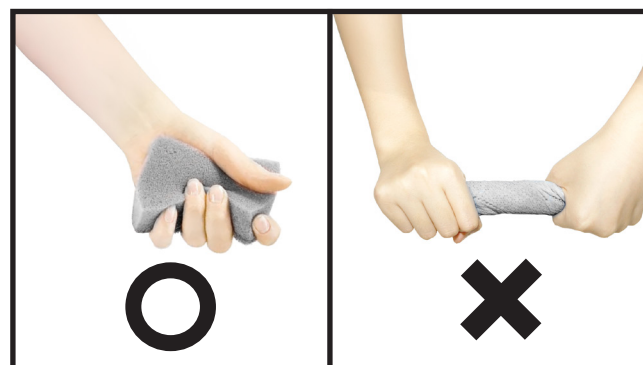


②エアクリーナーカバーとエレメント(空気ろ過部)を取り外します。



③エレメントをエアフィルタークリーナーや灯油を使用して洗浄します。※¹

エレメントを傷めないように押し洗いしてください。



④洗浄後エレメントを片手で握って絞り、乾燥させます。※²

⑤エレメントをエンジンオイルにひたし、押しつぶすようにしぼる。オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。

⑥エレメントをエアクリーナー本体にはめ込み、エアクリーナーカバーと本機の左側カバーを元の位置に戻し、ネジを締め付けます。

⚠ 注意

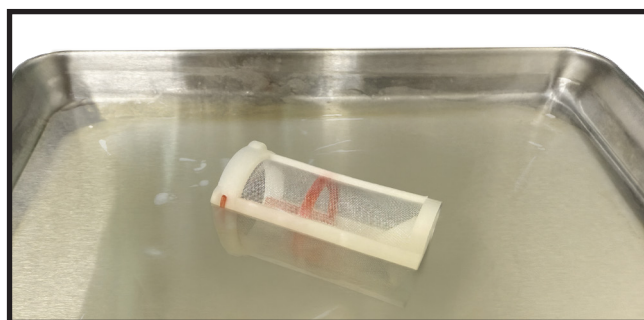
- ・ 洗浄は換気の良い場所で行ってください。また、洗剤は引火しやすいので、火種になるようなものを近づけないでください。※¹
- ・ エレメントは強く絞らないでください。破損するおそれがあり、吸気性能の低下によりエンジン不調の原因となります。※²
- ・ エレメント未装着の状態でエンジンを始動しないでください。異物の吸入により、ピストン・シリンダ等の摩耗・損傷を招くおそれがあります。

保守と点検

燃料タンクストレーナーの清掃



①燃料タンクキャップおよびストレーナーを取り外します。



②ガソリンを使用してストレーナーを丁寧に洗浄します。



③洗浄後、しっかり拭き取り、ストレーナーを燃料タンクに差し込みます。



④燃料タンクキャップを確実に取り付けてください。

排気口の清掃



①排気口カバーのネジ(6か所)をゆるめ、取り外します。



②排気口の六角ボルトをゆるめ、マフラーキャップとワイヤクロスも取り外します。



③真鍮ブラシ(市販品)を使用して排気口およびワイヤクロス、マフラーキャップの汚れを取り除きます。

④排気口関連部品とカバーを元通りに取り付けます。

⚠ 注意

作業中のやけどを防ぐため、必ずエンジンが完全に冷えてから作業を行ってください。エンジン停止直後は、エンジン本体、排気口、点火プラグなどが非常に高温になっており、触れると火傷の恐れがあります。

保守と点検

搬運する場合

警告

禁止

- 本機を運搬する際は、必ずエンジンが停止してください。火災や思わぬ事故の原因となります。
- 自動車内やトランクに積んだまま直射日光が当たる場所や高温になる場所に置かないでください。ガソリンが気化して引火し、死亡事故などの重大事故につながるおそれがあります。
- 車両に積載した状態で使用はしないでください。火災のおそれがあります。
- 発電機の上に重い物を置かないでください。

指示

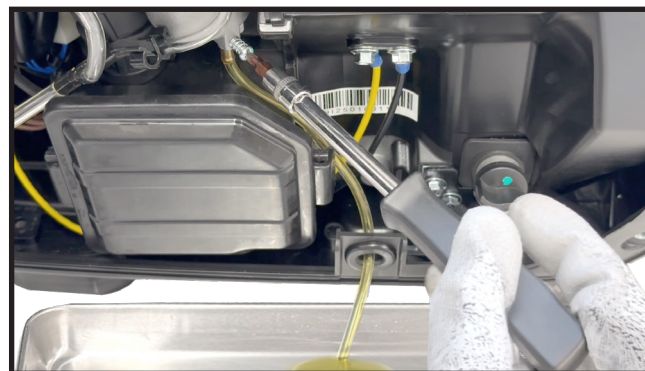
- 本機が移動・横倒し・落下・破損などしないよう、キールーバンド等でしっかりと固定してください。特に横倒し状態で運搬すると、エンジン始動不可や故障の原因となります。
- 本機を車のトランクに積んだまま長時間悪路を走行しないでください。
- 振動や衝撃により、燃料タンク内のガソリンがこぼれるおそれがあります。ガソリンを給油した状態で本機を運搬しないでください。火災のリスクを避けるため、予備のガソリンは消防法に指定された鉄製の携帯タンクで保管してください。



①3in1マルチスイッチを「停止」の位置にします。



②燃料タンクキャップつまみを「OFF(閉)」にして、エンジンが十分に冷却されたことを待ちます。



③ガソリンを抜き取ります。

(P33「燃料タンクからの抜き取り」参照)

※抜き取ったガソリンは、消防法に適合した金属製携行缶へ移し替え、適切に保管します。

④運搬時は、本機が落下・転倒・破損しないよう、安定した場所に積載し、ロープ等でしっかりと固定してください。

保守と点検

長期保管（一時保管）

①3in1マルチスイッチを「停止」にして、発電機のエンジンを停止します。

②エンジン部・排気口部が十分に冷えていることを確認してください。

③ガソリン燃料を取り外します。

（P33「燃料タンクからの抜き取り」参照）



※抜き取ったガソリンは、消防法に適合した金属製携行缶へ移し替え、適切に保管します。

④ガソリン抜き取り後、発電機を始動し無負荷運転（電気製品は接続しない状態）を行ってください。

（P23~24「エンジンのかけ方」参照）

※タンク内の残油を消費終わったら、エンジンが自動停止します。（停止するまでの時間は、ガソリン残量により異なります。）

⑤発電機が自動停止後、3in1マルチスイッチを「停止」の位置にします。

⑥発電機が十分に冷えていることを確認してください。

⑦キャブレター内残したガソリンを抜きます。

（P33~34「キャブレターからの抜き取り」参照）

※キャブレター内のガソリンを抜かずに長時間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。保管前の重要手順です。

⑧燃料タンクキャップつまみを「CLOSE(閉)」にします。

⑨エアクリーナーの清掃を行います。

（P36「エアクリーナーの清掃」参照）



⑩点火プラグを外し（P34~35「点火プラグの点検・交換」参照）、プラグ孔からエンジンオイルを約3~5mL注油します。

⑪リコイルスターターグリップを2~3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付けます。

⚠ 注意

リコイルスターターグリップは勢いよく引かないでください。プラグ孔からエンジンオイルが勢いよく噴き出す恐れがあります。

⑫リコイルスターターグリップを引いて、感じる位置で停止させ、ゆっくり戻します。

⑬本機にカバーをかけ、室内で湿気が少なく、換気の良い場所に保管してください。

⚠ 注意

一時保管の場合は、①~⑨まで行ってください。

故障と対処

※故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解しないでお買い上げの販売店にお問い合わせください。

エンジンがかからない

考えられる原因	対処	参照ページ
燃料が入っていない/ エンジンの始動には足りない	ガソリン燃料を補給する	21~22
オイル警告ランプ(赤)が点灯している → エンジンオイルが入っていない、量が少ない	エンジンオイルを給油する	14、19~20
3in1マルチスイッチの位置の問題	エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」に、 エンジンが冷えている場合や冬期は「チョーク」に	12、23
エンジンのかけ方に不足などがある	正しいかけ方を再確認する	23~24
リコイルスタータークリップの引き操作不足	クリップをすばやく強く引く	24
エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	36
点火プラグがかぶり、汚れ、破損	点検・清掃・交換	34~35
本機が傾いている	本機周辺を点検する、水平にする	/
規定範囲外のエンジンオイルの使用	正しいエンジンオイルまたは燃料を入れ替え (改善が行われない場合は修理)	31~32、 33~34
燃料によるエンジン不調		
外気温度が低い	使用推奨の温度範囲:外気温5~40℃	/
排気口が詰まっている	排気口の清掃を行う	37
側面のカバーが開いてる	側面のカバーを取り付く	/

リコイルスタータークリップが引けない

考えられる原因	対処	参照ページ
エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを排出して規定量を注入する	31~32
問題のある(外気温と適合ではない) エンジンオイルを使用する	指定のエンジンオイルを使用する	31
エンジンの焼き付き/内部に異物混入/ リコイルスターターの不具合	お買い上げ販売店、または当社の「カスタマサービ スセンター」へご連絡ください	/

保守と点検

エンジンが数分動いた後止まる

考えられる原因	対処	参照ページ
3in1マルチスイッチの位置の問題	始動後、3in1マルチスイッチを「運転」の位置にする	23~24
外気温度が低く、暖気運転が足りない状況でECOモードに入れる	3~5 分間の暖気運転を行う	/
複数の電気製品を使用するなど、急に大きな電気を取り出した	電気を少しずつ取り出す	14
点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換	34~35
本機が傾いている	本機周辺を点検する、水平にする	/

排気口（マフラー）から白煙が出る

考えられる原因	対処	参照ページ
初めての始動/エンジンが冷えた後の再始動	煙が薄く、すぐに消える場合は、水蒸気の可能性が高く、異常ではない	/
エンジンオイルの入れ過ぎ	白煙が濃く、継続する場合は、エンジンオイルを少し排出する	31~32
指定以外のエンジンオイルを使用する	指定のエンジンオイルを使用する	31~32

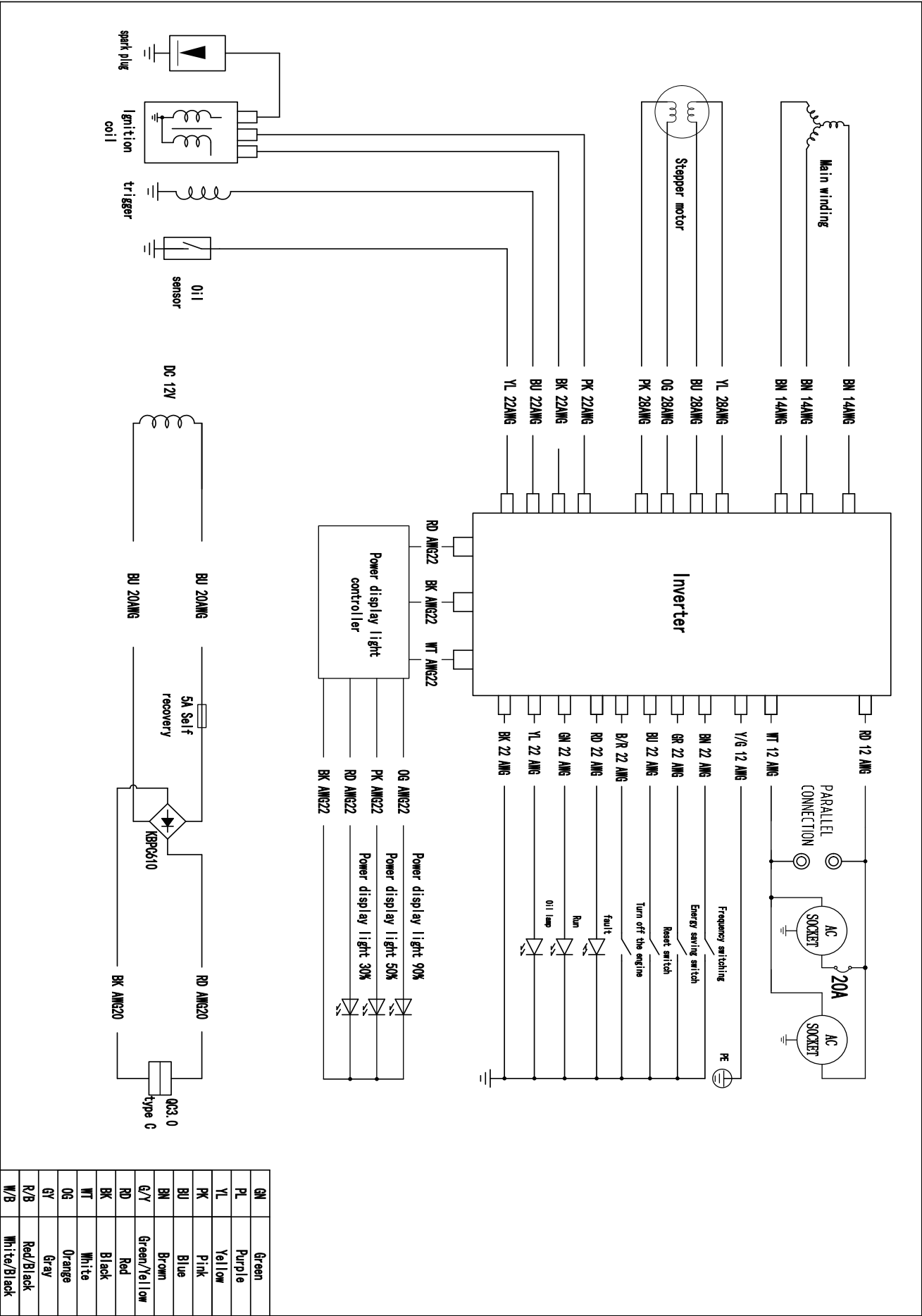
電気が取り出せない

考えられる原因	対処	参照ページ
前回過負荷保護作動後、交流出力の復帰（リセット）操作を実施していない	「交流出力復帰」ボタンを1回押して出力を復帰させる	16
水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時に大きな電流が流れる電気製品を使用	エコモードスイッチを「切」にする	/
シートをかぶせている、または屋内で使用することにより本機の温度が高くなっている	本機周辺を点検する、または屋外で使用する	/

電気製品の出力が足りない

考えられる原因	対処	参照ページ
周波数が間違っている	正しい周波数に合わせる	15
電気製品が本機に適していない	ご使用の電気製品の接続可否を確認ください	/

配線図



[illegible]

保証規約

本規約は、弊社が日本国内で販売する該当商品（以下「本製品」といいます）に適用いたします。保証期間・保証内容の基本事項は保証書の記載に従います。なお、本保証は日本国内で使用される場合に限り有効です。

1. 保証期間

- 保証期間は、使用開始時期・使用期間にかかわらず、お買い上げ日から1年間です。
- 保証期間を超過した場合は保証対象外となり、有償対応となります。
- 保証修理を行った場合でも、保証期間は延長されません。
- 発送日より7日以内に初期不良が判明した場合は、送料を弊社負担として対応いたします。

2. 保証の基本方針

- 取扱説明書・注意事項に従った通常の使用状況において発生した、材料または製造上の不具合について、保証書および本規約に基づき対応いたします。
- 保証対応は、修理または弊社が相当と判断する代替対応（同等品部品への交換等）といたします。保証修理により取り外した部品は弊社の所有となります。
- お客様から弊社へ修理品をお送りいただく場合の往復送料は原則としてお客様のご負担となります。保証内の部品提供に伴う送料についても、お客様のご負担となります。
- 本規約の対象は、日本国内で使用し故障した本製品に限り、日本国外へ持ち出した時点で保証は無効となります。

3. 保証修理適用外の事項

保証期間内であっても、次の場合は保証修理の対象外となる場合があります（有償修理の可否は、状態および部品供給状況により判断いたします）。

- <1> 指定外燃料・潤滑油・消耗品の使用、または弊社が認めていない部品・材料の使用に起因する不具合
- <2> 取扱説明書と異なる使用、保守整備の不備、または保管上の注意を怠ったことによる故障・損傷
- <3> 不適切な保守・点検・清掃・保管、または保管場所の不備による不具合
- <4> 一般と異なる使用場所や使用方法、または酷使によって生じた不具合
- <5> 指定された出力・運転時間等の限度を超える使用によって生じた不具合
- <6> 使用に伴う消耗、または経年変化による現象（退色、塗装割れ、腐食、錆、樹脂部品の破損・劣化等）
- <7> 落下、転倒、衝撃、加圧等による故障・損傷
- <8> 弊社または弊社が認めるサービス店以外で修理された本製品
- <9> お客様または第三者による修理、分解、改造、加工、部品装着に起因する不具合
- <10> 火災、地震、水害、落雷、台風その他天災地変、公害等による故障・損傷
- <11> 薬品、オイル、石はね、雨、雹、氷、塩分、煤煙、粉塵、砂、鳥害等の外部要因による故障・損傷
- <12> 異物混入、水没・浸水、腐食等による故障・損傷
- <13> 本製品が使用できなかったことにより生じた損失の補填（休業補償、営業損失、盗難、紛失等）

4. 保証の対象外となる費用

保証修理の対象であっても、次の費用はお客様のご負担となります。

- <1> 消耗部品（ゴム部品、皮部品、スポンジ類、バッテリー、点火プラグ、刃・先端部品等）の交換、修理および補充費用
- <2> 定期点検、清掃、調整、消耗部品の交換等のメンテナンス費用
- <3> 燃料、エンジンオイル等の補充・交換費用
- <4> 往復送料（弊社が別途負担を明示した場合を除きます）
- <5> 弊社指定外の窓口・販売店等での修理費用
- <6> 転売品・中古品・譲渡品等で、購入者の特定ができない場合
- <7> 保証書の提示がない場合、または必要事項の未記入・改ざんがある場合
- <8> 使用不能に伴う二次的損失（営業損失、休業補償、代替機レンタル費、宿泊費、交通費、通信費等）

5. 別扱い（対象外）となる部品等

弊社以外が取り付けた部品・付属品等は本保証の対象外であり、各部品メーカーの保証に従います。詳細はお買い上げの販売店へご相談ください。

6. 免責・責任の範囲

弊社の保証責任は、保証書および本規約に定める範囲での修理等に限定されます。弊社は、特別損害・間接損害・結果損害（逸失利益等）について責任を負いません。

7. 規約の変更

本規約は予告なく変更する場合があります。適用される規約は、原則として修理受付時点で弊社が提示する最新版といたします。

修理サービス規約

1. 修理をご依頼いただく前の確認事項

- 弊社では出荷前に動作点検を行っておりますため、製品にオイルや水分が残っている場合があります。また、輸送過程により軽微な傷・汚れが付着する場合があります。
- 修理をご依頼いただく前に、取扱説明書の「故障と対処」をお読みいただき、故障かどうかをご確認ください。

2. 修理依頼品をお送りいただく際のご注意

- 弊社へ修理品をお送りいただく場合の往復送料は、お客様のご負担となります。
- 返送の際に**再梱包**が必要となりますので、**梱包材はお捨てにならないよう**お願いいたします。
- 輸送中のダメージや破損が生じないように、十分に梱包してお送りください。不十分な梱包により輸送中の紛失・破損が生じたと弊社が判断した場合、修理の受付をお断りする場合があります。なお、輸送中の事故について弊社は責任を負いかねます。
- 保証書に必要な事項（ご住所、お名前、お買い上げ店、お買い上げ年月日等）をご記入のうえ、修理品に同梱してください。

3. 修理についての受付・手続き

- <1>修理は「メンテナンスセンター」への郵送または持込に限ります。出張修理お受けしておりません。
- <2>修理をご希望の場合は、事前に弊社「カスタマーセンター」へご連絡ください。ご連絡なく郵送／お持込みされた場合は受付できず、受取拒否、または返送料金をお客様負担として返送いたします。
- <3>受付時に、保証書および購入日が確認できる書類（レシート／領収書／購入明細等）の提示、または症状確認のため不具合箇所の写真・動画の提示をお願いする場合があります。
- <4>安全上、燃料の取扱いは法令および運送会社の規定に従います。必要に応じて、発送前の準備をお願いする場合があります。
- <5>お見積りご連絡後に修理をキャンセルされる場合、返却品は預かり時の状態と異なる場合があります。
- <6>修理作業着手後の修理キャンセルはお受けできません。
- <7>修理品の返却は弊社指定の運送業者にて行い、返却先は日本国内に限ります。
- <8>北海道・沖縄・離島および一部山間部等の一部地域への返送（往復を含む）に伴う送料は、返送時期にかかわらずお客様のご負担となる場合があります。送料は**概ね3万円以上**となることがあり、製品のサイズ・重量および配送条件により変動します。当該地域への返送手配および送料のお支払いは、**お客様ご自身で行ってください。**

4. 修理の方法・部品の取扱い

- 修理は、部品交換または補修により行います。
- 修理により取り外した部品・交換した部品等は、原則として弊社の所有物となり、いかなる場合も返却いたしません。
- 修理の都合により、再生部品または改良部品を使用する場合があります。また、弊社判断で製品交換にて対応する場合があります。
- 仕様変更等により同一部品の供給が困難な場合は、同等品で対応する場合があります。なお、部品はアッセンブリー（組立品）での供給となる場合があります。
- 生産終了品等で部品供給が困難な場合、修理をお受けできない場合があります。
- 弊社の品質基準を上回るご要望には対応いたしかねます。
- 本製品の故障および修理に起因して生じた派生的損害について、弊社は責任を負いかねます。

カスタマーサービスセンター

修理に関するお問い合わせ



0120-907-689 (ナビダイヤル)

電話受付時間 | 平日10:00～12:00 13:30～17:30
(土日、祝日、会社休業日を除く)

※お電話番号をお確かめのうえ、おかけ間違いのないようお願いいたします。



@kareyou

対応時間 | 平日(月～金) 10:00～18:00
(土日、祝日、会社休業日を除く)



ライン用QRコード

※症状確認のため、不具合箇所の写真・動画のご提供をお願いする場合がございます。
スムーズな確認のため、LINEでのご連絡を推奨いたします。

製品に関するお問い合わせ



support@cyose.info

対応時間：平日10:00～18:00



(ナビダイヤル)
0800-300-1884

対応時間：平日10:00～12:00 13:30～17:30

(土日、祝日、会社休業日を除く)

お問い合わせ相談について

- ・ ご相談は、まず「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。
- ・ 症状・使用状況を伺い、お手続方法をご案内させていただきます。
- ・ お問い合わせの際は、下記情報をご準備ください：
①型番 ②お買い上げ年月日 ③購入先 ④故障状況等
- ・ 型番は本製品の仕様ラベル、または「取扱説明書」表紙の左下に記載しています。
- ・ 製品・部品の購入に関するお問い合わせは、購入先販売店または「kareyou」の公式サイトへご相談ください。



<http://www.kareyou.jp>

匡正株式会社
KYOSEI CO.,Ltd

【メンテナンスセンター】
〒289-1126
千葉県八街市沖1248-1

※郵送修理/返品の前に事前連絡受付をお願いいたします。



匡正株式会社